

○1 番（岡本真澄君）

1 番、岡本真澄です。

瀬戸内国際芸術祭について質問させていただきます。

昨年開催された、第 6 回瀬戸内国際芸術祭 2025 をもって、2010 年の初回から 15 年という大きな節目を迎えました。

この間ですね、ほかの議員さんからも多くの議論が交わされてきました。

例えば、観光や地域経済への波及効果、二次交通や救急体制といった受け入れの課題について。また、住民の静かな暮らしを守るための生活圏とアート圏のゾーニングの必要性など、さまざまな角度から議論がありました。

こうした過去の課題と対策の積み重ねを経た今、改めて 1 つ目の質問をいたします。この 15 年を振り返ると、瀬戸芸は単なる観光イベントとしてだけでなく、例えば瀬戸芸がきっかけで、島を知り移住して下さった方が増えるなど、本町の課題である人口減少に一定の歯止めをかける役割を果たしてきたとも考えられますし、もし瀬戸芸がなければと考えれば、過疎化というのはもっと深刻だったかもしれません。

15 年という節目の開催を終え、次の開催については未確定である今、改めて、来場者数の増加や、宿泊業等の経済的な数字だけでなく、こうした移住定住への波及や観光客が増えることで、町民が地域への誇りを感じるなど、町民と町は具体的にどのような成果があったと総括しているかお伺いいたします。

○議長（濱野良一君）

商工観光課長 蓮池幹生君。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

岡本議員のご質問にお答えいたします。

2010 年に始まった瀬戸内国際芸術祭は、「海の復権」をテーマに掲げ、以後 3 年ごとにこれまで計 6 回の開催を重ねてまいりました。

途中、コロナ禍での開催という難しい局面もありましたが、回を重ねるごとに知名度も上がり、今では国際的に認知された一大アートの祭典となっております。

当初は直島、豊島、小豆島や高松港周辺などの 8 エリアで開催されましたが、6 回目の開催となる今回は、新たに東讃地域なども加わり、過去最大の全 17 エリアで開催され、全体の来場者数は約 108 万人、経済波及効果は約 195 億円であり、小豆島・豊島には、それぞれ約 14 万人と多くの来訪がありました。

芸術祭は、地域の魅力を再発見し、地域住民の誇りを高める役割を果たしております。瀬戸芸を通じて、地元の伝統や文化が再評価され、地域の観光資源としての価値が向上し、地域の活性化に寄与しています。

また、瀬戸芸の開催により、地域への観光客数は大きく増加しました。アート

作品が展示される島々は、国内外からの訪問者にとって魅力的な観光地となり、地域経済の活性化に寄与しています。観光客の増加は、宿泊施設や飲食店、地元産品の販売など、地域全体に波及効果をもたらしております。

さらに、地域との交流の促進において、芸術祭は、国内外のアーティストや、観客が集まる場となり、小豆島や豊島で作品展開するアーティストが、地域住民とのワークショップを通じて交流を深めるなど、国際的な文化交流の場としての役割も果たしております。これにより、日本の文化や芸術が海外に広がり、国際的な理解や関心を高めることにも寄与しております。

加えて、芸術祭で小豆島・豊島を訪れて、それがきっかけで島の魅力にひかれ、移住定住に至った方々が少なからずいらっしゃるのも大きな効果であります。

以上のように、瀬戸内国際芸術祭は、多岐にわたる成果を上げてまいりました。今後もこの芸術祭が、地域にとって重要な役割を果たし続けることを期待するとともに、地域の方々と一緒になって、地域の魅力を最大限に引き出しながら、さらなる発展を目指して取り組んでまいりたいと考えております。以上です。

○議長（濱野良一君）

岡本真澄君。

○1番（岡本真澄君）

来島者が増えることによる経済効果や移住定住への恩恵があったこと、また地域の方々がですね、その地域を思いやる気持ちが生まれるということも、ある程度理解いたしました。

この成果についてなんですけれども、近年、先ほど大野議員の方も一般質問されておりましたが、土庄町、小豆島町は国連世界観光機関のベストツーリズムビレッジに認定され、またグリーンディステーションズのシルバーアワード受賞と評価されております。

瀬戸芸での成果を町がそういった国際評価に結びつけたとも考えられるとも思いますし、そう考えれば瀬戸芸がそういった認定や賞を受賞するにあたっての1つの要因としてあったのではないのかとも考えられるんですけれども、その辺りいかがでしょうか。

○議長（濱野良一君）

蓮池課長。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

岡本議員のご質問にお答えいたします。

この瀬戸内国際芸術祭のアクションポリシーの方には、地域と寄り添うであったり、あるいはその主体的に地域文化の掘り起こしを進めることっていうのが掲げられております。

議員のおっしゃるようになりますね、この国際認証であったり、国際的な認定を受

けるにあたってはですね、こういった瀬戸芸の地域との連携であったり、あるいはその文化伝統の継承など、広い分野にですね、好影響を与えているということも、このグリーンディステーションズのシルバーアワード、またベストツーリズムビレッジの認定を受けるにあたっての、大きな要因だったというふうに考えております。

○議長（濱野良一君）

岡本真澄君。

○1番（岡本真澄君）

はい、わかりました。町としてですね、これらの認定や賞を土庄町のホームページの方にも載せて、世界的な認証を受けましたとか、それによって期待される効果はみたいなのをPRされてるんですけども、率直に申し上げましてですね、大半の町民の方は、そのアワードがどれくらいすごいものか、自分たちの生活にどう関係するのかというのはですね、全くピンと来ていないのが実情ではないかなと思います。

過去にですね、ほかの議員さんも一般質問において、こうした国際認証について、カタカナ言葉ばかりで一体どれぐらいの一般の町民の方々がわかるのかなっていうふうに懸念する声も上がってございました。

瀬戸芸に関してでもですが、外からの評価が高くても、町民自身ですね、その価値を理解して、実感できていなければ、なかなか地域への誇りを感じるということにもつながらないのかなと思います。

この凄さのギャップですね、町としてどう埋めて、今後、町民の皆さまへと発信していくつもりなのか、その辺りの考えをお願いします。

○議長（濱野良一君）

蓮池課長。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

岡本議員のご質問にお答えいたします。

議員ご指摘のとおりですね、この認証が示します世界的な評価という側面がですね、果たしてその地域住民の皆さまの日常生活にですね、どれほど身近なものとして感じられていただけているかという点についてはですね、まだまだだというふうに認知しております。申し訳ありません。で、これまでですね、こういった事象を契機として、国際的な知名度を向上する施策であったり、あるいは観光関連の事業者向けのセミナーなどを開催してですね、認証の意義を伝えてきたところではあるんですけども、これらは観光関係者に限定されがちでありますので、そういった広く住民にこの価値を届けるにはなかなか至っていないというのが現状だと思っております。

アワードが評価しているのはですね、この小豆島土庄町にあります、その豊か

な自然であったり、あるいはその農村歌舞伎などのその伝統文化歴史ですね、そういうものを守り続けてきた、そういった住民の皆さまの豊かな営みそのものが素晴らしいってところが評価されているということでもあります。

そういう意味を含めてですね、今後、この受賞、単なる観光の勲章ということではなくてですね、皆さんの日々の暮らしであるとか、そういったものを守ってきた地域の絆とかですね、そういったものを、世界から称賛されているんですよ。そういったところですね、できるだけわかりやすく、あまりカタカナ使わずにですね、お伝えしながら、その地域の誇りであったり、次の世代へつないでいく、そういったツールとして最大限活用していきたいなというふうに今思っております。

○議長（濱野良一君）

岡本真澄君。

○1番（岡本真澄君）

課長がおっしゃられましたように、審査の評価基準の中でもですね、文化や歴史というものが高く評価されているというのを、私もホームページ見て確認させていただいております。

ただですね、ホームページ、広報、SNS っていうのは見る人は見ますし、見ない人は見ない。なかなか町民の皆さまに伝えるっていうことは、難しいとは存じておりますが、さまざまな手段を講じて各課でですね、そういったこと連携して頑張っていっていただきたいなと思います。

例えばですね、教育委員会と連携するとかしてですね商工観光課が、先ほど課長がおっしゃられたように、小豆島土庄という地域は、皆さんが培ってきたものが、こっだけ素晴らしいんですよっていうのを、小学校の子ども等とかですね、社会科の授業とかふるさと郷土の授業とかでですね、そういったものを伝えてあげる機会を設けるとかってして見るのはどうかなと思うんですけど。ちょっとそのあたりどうでしょう。

○議長（濱野良一君）

蓮池課長。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

岡本議員の質問にお答えいたします。

学校現場との連携というご提案ありがとうございます。

議員おっしゃるように、こういった次世代を担う子どもたちに、こういったことを伝えていくっていうことは、すごく大切なことだというふうに思っています。

先ほど申しましたけれども、この小豆島土庄町が、世界的にも認められている、そういったことをですね、ぜひ子どもたちに伝えていくこと、それがひいてはで

すね、子どもたちのこのシビックプライドであったりっていうことの醸成にもつながっていくのではないかというふうに思います。ということ踏まえてすね、機会あるごとに、子どもたちにもわかりやすくですね、両町連携しながら、伝えてまいりたいというふうに考えております。よろしくお願ひします。

○議長（濱野良一君）

岡本真澄君。

○1番（岡本真澄君）

その点よろしくお願ひいたします。

では、次に2点目の質問をいたします。瀬戸芸は、広い範囲で転々と作品があり、作品展示がない地域では、盛り上がるの温度差を感じるとの声も耳にいたします。

しかし、そうした地域の中にも、先ほどおっしゃっておられました、世界から評価された豊かな自然や受け継がれてきた伝統文化という強力な武器があるとも考えられますし、自分たちも少しでも地域を盛り上げたいという思いを持った方もいらっしゃいます。

自分たちの地域には作品がないから関係ないと諦めるというのではなく、例えばですね地元自治会の方から、うちの地区の遊休地や空き家を活かしたいとか、地区ぐるみで協力したいとかいったようなですね、具体的な申し出があった場合、町としてどう対応されるのか。町民の思いに対しですね、ただ頑張ってくださいねっていうのではなく、そういった方々に対して、情報発信を手伝うとか、活動の拠点づくりを支援するとか、あるいは実行委員会との橋渡しをするとかですね、そういったところ、町が今後どう寄り添っていくかっていうところを具体的にお伺ひいたします。

○議長（濱野良一君）

蓮池課長。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

岡本議員のご質問にお答えいたします。

瀬戸芸においてですね、先ほど議員がおっしゃったように、その地域で空き家を活用したいであるとか、あるいは協力したいなという地域の皆さんの声があるということはとてもありがたい話でありまして、現実的にそういった作品を置く場所であったりということは、苦慮しているところでもあります。

そういったお声はものすごくありがたいので、もしそういったお声をですね、ありましたら実行委員会等にはですね、われわれの方が、その地域にはこういった物件があったり、あるいはそういった思いがあるんだというところをまとめてですね、伝えていきたいというふうに思っています。

その上でですね、その地域が作品展示としての場として選ばればいいで

すが、なかなか、われわれの意向どおりにいかないともございます。

議員もご承知のとおりですね、作品の選定やその配置につきましては、やはりアーティストの感性であったり、創造性などが重視されるものと考えておりますので、町サイドの要望が必ずしも通るものではなくてですね、また作品の設置数にも限りがありますので、そういった中、すべての地域に満べんなくですね、その作品を設置するということは難しいと言わざるを得ないという状況であります。

現在の作品が今設置されておりますのは、むしろ広い町域の一部という、一部の地域という言うべきでもありますが、作品のあるなしにかかわらずですね、例えばそのアーティストと一緒にやる作品の制作活動、これワークショップですよとか、子どもたちがアートに触れるその学校連携授業であったり、あるいは来場者へのおもてなし、お接待、それから港でのお見送りであったりですね、作品受付、それから案内所のスタッフ等々ですね、芸術祭によって生まれますそのさまざまな交流に、参加協力していただくということは、全くもって可能です。芸術祭を一緒に作り上げていくっていうお気持ちですね、ぜひ参加していただければありがたいというふうに思っております。

それから作品がない地域につきましても、芸術祭の効果を波及させることも重要であるというふうに考えております。例えば、瀬戸芸とコラボした観光コースの造成であったり、あるいはそのイベントの企画なども、その地域の皆さまのご意見を伺いながらですね、ぜひ検討してまいりたいというふうに思っております。

今回の開催に向けてですね、もしそういった地域のお声、ご意見等ございましたらですね、ぜひわれわれの方にお声掛けいただければと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○議長（濱野良一君）

岡本真澄君。

○1番（岡本真澄君）

前向きなご答弁ありがとうございます。

次の瀬戸芸の開催についてはまだ未確定ですけども、こういったですね、町民からの声にしつかりと寄り添って進んでいただける行政であることを今後もお願いいたしまして、私の一般質問を終わります。